

信頼感謝を世界に証明した

ロンドン五輪の偉業

今年の夏も暑かったですね。溶ける様な暑さでした（苦笑）。

いつの頃からでしょう、日本の真夏を「猛暑」から「酷暑」と表現する様になったのは…？

私達は面白い生き物で、心の置き所1つで、見方や感じ方が百八十度変わってしまうという能力を備えています。「あつ〜い、暑い。さむ〜い、寒い」と言いながら好きな事に夢中ならば、そんな事は気になりません。例えば、甲子園球場では白熱の高校野球が開催されます。ご存じの通り甲子園球場には屋根もなければ冷暖房なんか完備されていませんよね（笑）。汗をビッシヨリ流しながら観戦するのも、《高校野球の醍醐味》というわけで、「酷暑」と言われる日本の暑さをも楽しんでいきます。つまり、自分の世界や宇宙観を定義するのは、自分の心の置き所1つなのです。

【第30回夏季五輪ロンドンオリンピック】

《明るく、強く、元気に美しく頑張ろう》を合い言葉に、過去最多となる三十八個のメダルを獲得した日本選手団（金7個、銀14個、銅17個、入賞80）。

これだけの良き成績を収めた大会だっただけに、朝となく夕となく、連日寝不足続きで観戦されたという方も少なくないのではないのでしょうか（笑）。それにしても『日本代表選手の皆様、本当におめでとうございます』と、特に今回の大会は心からそう思いました。

と言うのも、今回の大会では「絆・感謝・信頼・友情」という言葉が全面的に表れた競技が多かった様に感じています。

また、年末恒例の流行語大賞なるものがありますが、オリンピックメダリスト達のコメントが流行語大賞にノミネートされる事も多くあります。

選手達の競技後のコメントにも注目が集まりました。そんな中、私は個人的に流行語大賞にはあまり興味がないのですが、メダルを獲得した選手達のコメントに自然と耳が傾き、気がつけば心を揺り動かされていました。

今大会のメダリスト達のコメント

は、「これも皆様の温かい応援のおかげです、感謝します」というコメントに終始していたからでした。つまり、過去の流行語大賞にノミネートされてきた「オレ様」的な、自分の努力だけを強調したコメントは一切無かったのです。

【選手達の感謝のコメント抜粋】
（金メダリスト）

◎吉田沙保里（レスリング3連覇）「皆さんの応援のお陰でメダルが取れました。」

◎内村航平（体操）「今回のオリンピックは、沢山の応援を頂き、それには十分には答えられなかったけど、勇気と感動は届けられたかと思えます。皆様に感謝します。」

◎小原日登美（レスリング）「長年の夢だった金メダルが取れました。これは自分ひとりでは取れなかったもので、多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。」

◎松本薫（女子柔道）「決勝戦で勝利した瞬間に分かりました。自分ひとりで戦っていたのではなかったという事を、自分一人だけの金メダルじゃない。沢山の応援のお陰です。」
（銀メダリスト）

◎蟹江美貴「このメダルの重みは皆さんの応援の重み。」

◎澤穂希（女子サッカー）「この様な素晴らしい成績が残せたのも、支えてくれた全ての皆さんのお陰です。ありがとうございました。」

◎千田健太（男子フェンシング）
「陰で支えてくれた人々、応援してくれた方々の声援が原動力でした。」

◎藤井瑞希（女子バドミントン）
「今回のメダルは皆さんの応援で取れたものです。ありがとうございました。」

◎古川高晴（アーチェリー）「メダルを取れた事は嬉しいが、応援して下さった皆さんへの感謝で一杯です。」

またチームワークや友情を感じさせてくれた、なでしこジャパンや、競泳男子400メドレーリレーの松田丈志選手のコメントが印象的でした。松田選手のここまでメダルの無かった北島康介選手への男気溢れるコメント：「（北島）康介さんを手ぶらで帰すわけにはいかない」と、個人の五輪三連覇を逃した北島選手への思いを語り、見事「銀メダル」を獲得しました。北島康介選手は「みんなのおかげです」と語っていました。

もしも、オレが頑張ったから、私が世界で一番努力したからメダルを

獲得できたんだという様に、自分の事しか考えられない選手達であったならばどうだったでしょうか？おそらく最高の結果を出せなかったのではないだろうか？史上最多のメダルを獲得する事ができなかったのではなからうか？その様に思います。

人生というのは、心持ち1つで見える世界が全く違うのだと思います。何事も、心持ち1つで得られる結果が変わってきます。今回の日本代表選手の共通認識ともいえる心持ち、つまり感謝する心が心の中心軸に備えている選手達の人間性が、最高の結果をもたらしたのではなからうかと思わずにはおられません。

メダルというのはあくまで結果論です。しかし、選手達や関係者にとってメダル獲得が何よりの目標であり、到達点なのも知っています。が、敢えて言います。それ以上に尊く高い精神で競技に臨んで下さった選手達の精神性の尊さに、祝杯を挙げたいと思います。

『これぞ高尚な日本人の人間性。これぞ大和魂』と、同じ国民として、本当に誇りに思います。感動を有り難うございました。

日蓮聖人は「私達の心が穢れれば世

界もまた穢れ、心清ければ世もまた清くなる。美しい世界と穢れた世界に隔ては無い。ただ私達の心の善悪によるのだと仰った。佛様の心は、貪り・瞋り・愚痴《三毒(さんどく)》といった迷いの心に支配された時には、周りの世界は汚れた世界に見えてしまいます。また逆に、喜び、感謝といったものが心に芽生えた時は、周りの世界は清き世界に映ります。私達の心は、置き所1つで、見える世界はガラリと変わってしまうのです。

また「例えば汚れた鏡も磨けば宝玉のようになる。迷う心は磨いて鏡のようなものである。これを日々怠らず磨くべきである。磨けば必ず美しく鏡となる。ではどうやってこれを磨くべきか。それは南無妙法蓮華経と唱えることが磨くという事である」と仰いました。鏡は磨かずに放つて置くとすぐに汚れてしまう。そうすると映るはずの物が映らなかつたり、映つたとしてもありのままに見えなかつたりするものです。日々お題目(南無妙法蓮華経)をお唱えし、常に心の鏡を磨く事が大切だと日蓮聖人はお示しです。

《お題目をお唱えする》というのは、日々の生活の中で、周りの人にどれだけ尽くす事ができるか？の実践だと思えます。宮澤賢治は、法華経の大信者

でした。その賢治をして、「世界全体が幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない」という名言を遺しています。

先述の「もしも、オレが頑張ったから、私が世界で一番努力したからメダルを獲得できた」という、個人の事しか考えられない選手達であれば、たとえ史上最多となるメダル数を獲得できたとしても、銀座で行われた史上初となる凱旋パレードは催されたでしょうか？そしてそのパレードを祝しに全国から50万人ともいわれるファンが沿道に集まり、夜中3時頃から長打の列を組んで選手達を迎えようとする光景があつたでしょうか？50万人という、とんでもない数のファンが銀座の狭い沿道に参集したとしても、理性的に振る舞える私達日本人って凄いですよ。

そして、選手達は「皆さんに感謝します。ありがとう」と言うけど、観戦していた私達日本人に感動と勇気を届けてくれた選手達に、私達からも「ありがとう」を送りたいと思います。

【法華経】のお題目「南無妙法蓮華経」の肝心は、実践です。清き心は、周囲の人の心をも清くします。穢れた心は、周囲の人の心をも穢してしまいます。清き心で実践する姿は、周囲の

姿や世界をも清くしていきます。

私達は自分の人生の中で、いかに清き心で実践できるか？それが【法華経】の修行という事になるでしょう。清き心で実践する時、心の鏡を磨いている事になるでしょう。その心に触れた時、人は感動し、幸福を共有できるのではないのでしょうか？

全ては心の置き所1つです。清き心で実践行動しようと思掛ける人が世の中に溢れれば、この世界は必ず清き世界となるでしょう。

「オレが、私が」の心を捨て去り、共同信賴し合える日本人らしさを感じさせてくれたロンドン五輪の日本代表選手達に心から感謝いたします。

合掌

副住職 谷川寛敬

